浜田教育事務所だより

発　行

平成２２年６月８日
第３２号

浜田教育事務所

子どもたちが笑顔でそれぞれの力を伸ばしていけるように

所長　驛田省吾

新緑の映える季節となり、一回目の学校訪問での移動時間が束の間の憩いとなっています。各校においては新体制の下で、新たな目標に向かって歩み出され、活気に満ちた日々を過ごしておられることと思います。

四月末より管内全ての小・中の学校を順に訪問させていただきました。昨年に引き続き年度初めの時期の訪問で恐縮しております。管内の小・中学校のうち、約九〇校でお話を聞かせていただきましたが、各学校それぞれに独自の取組をしておられ、頼もしい限りです。

昨年度、学校訪問のうち市町担当指導主事は延べ四四〇回、教科等担当指導主事は延べ三二五回訪問させていただいております。これは、前年度までの訪問回数に比べて約一・五倍に増えており、七名の指導主事で対応できる限界に近い回数ではないかと感じています。幸い今年度から、四つの市町に派遣指導主事が配置となりましたので、今後は派遣指導主事と協力しながら、さらに学校現場のニーズに合った学校訪問をさせていただきたいと考えております。

本年度から、次期教科書の採択作業も始まり、各学校とも新教育課程の全面実施に向けての準備を進めておられることと思います。生徒指導上のことなど多くの教育課題を抱えておられる中で、新教育課程で示されている内容を盛り込むことを過重な負担と感じられておられないでしょうか。

先日、広島でも有数の大規模中学校で、赴任から一年で学校の建て直しを図られ、学力向上までの成果を挙げられた校長の実践記録を手にしました。実際に取り組まれた過程を読ませてもらって、当たり前のことを学校職員が着実に実践していくことの重要性を再認識させられました。もちろん、校長の強い思いと行動力があるからこそ、職員が目的意識をもって意欲的に取り組めたのだと思います。

本には触れられていませんでしたが、各教科等の授業を始めとして、生徒指導、キャリア教育等の指導、外部機関との連携について、多くの事柄を短期間でどう取り組まれたのか知りたいところです。

ただ、スクールカウンセラーの活用についても、ともすると不登校となっている子どもや親の対応を任せてしまうことがありますが、この中学校では、教員が身につけておくべき課題であると捉え、スクールカウンセラーを招いての定期的な研修会を実施しておられます。一つ一つの事柄を、本来の趣旨から見直す作業も必要です。

多くの課題はありますが、見方を変え、取組の姿勢を整理することで、案外スムーズに課題解決の糸口が見つかるようにも思えます。

それぞれの学校で、校長先生のリーダーシップの下、今一度全体計画を見直し、職員一人一人が自分の事柄として無理なく取り組んでいける体制づくりができますようお願いいたします。そして子どもたちが笑顔でそれぞれの力を伸ばしていけることを祈念しております。